

2017 年度 (平成29 年度) 学校評価自己評価表

神辺	中学校区	校番 80	福山市立	道上小	学校
最終更新日			2018年(平成30年)1月26日		

I 福山市 ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒も教師も「授業をどう創っていくか」へ意識が向いてきている。 児童生徒の課題解決には、「わかる授業づくり」が重要である。 教科等の課題を明らかにした取組の方向性を示すことが大切である。 	児童生徒の現状 <ul style="list-style-type: none"> 学力の定着が十分ではない。 場や相手に応じた関わりスキルが低い。 自己肯定感、自己有用感が低い。 	育成する力 <small>(21世紀型“スキル&倫理観”)</small>	A コミュニケーション	B 人としての思いやり	
		めざす子ども像 <small>(義務教育修了時の姿)</small>	あたりまえのことを ひたむきにやりきる子		
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が、授業での学びを日常の様々な場面で活用し、行動化できようになる。 校種、教科をこえた合同授業研究を行う。 児童生徒が、自己肯定感・自己有用感を高める。 		

III 自校

ミッション		社会に貢献する人づくり			
学校教育目標		豊かな心を持ち 共に高まり合う 子どもの育成			
現状		育成する力 <small>(21世紀型“スキル&倫理観”)</small>	A コミュニケーション力	B 人としての思いやり	C 能動的に動くことができる力
<児童生徒> <ul style="list-style-type: none"> 習得した知識や技能を、活用する力が十分ではない。 自己肯定感が低い児童が固定化している傾向にある。 <授業> <ul style="list-style-type: none"> 課題意識をもち、考えを広げたり理解を深めたりする授業づくりが必要である。 児童の学習状況を把握し、個に対応した授業実践を行い、学力向上につながる授業づくりが必要である。 	めざす子ども像	1・2年生	人の話をしっかり聴くことができ、自分の思いを話すことができる。	友達の頑張りや良いところを見つけることができる。	目標をもって最後まで力いっぱいやりきることができる。
	3・4年生	自分の考えをもち、筋道立てて分かりやすく伝えることができる。	一人ひとりの違いを理解し、受け入れることができる。	課題解決に向けて粘り強く取り組み、次につながる振り返りができる。	
	5・6年生	相手の意図をつかみながら聴き、目的や意図に応じて適切に話すことができる。	自分と異なる意見を受け入れ、考えを広げることができる。	課題解決に向けて、自分から進んで調べたり、新たな課題を見つけようとしていたりすることができる。	
		研究	算数科、音楽科 主体的に学ぶ子どもの育成 ～共に高まり合う 学び合いのある 授業をめざして～		
		めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自分の考えをもち、友だちと関わりながら、学び合うことができる授業 児童が意欲的に考えたい課題が明確に設定されている授業 児童が達成感や成長を実感し、自覚することができる授業 		

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立	道上小	学校
------	-----	----

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）					
							□指標に係る取組状況	達成 評価	改善 評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	達成 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
2	各種調査において県・国の平均を上回る学力をつける。	★	継続	各種調査において通過率30%未満の児童の割合を10%以下にする。	基礎基本の学力の定着を図るためのチャレンジタイム等の充実を図る。	国語「言語」算数「技能」において、単元末テスト・学期末テストの平均を85点以上にする。	<input type="checkbox"/> 全国学力・学習状況調査では、県平均をAB問題共に国語2P、算数2P上回った。基礎・基本定着状況調査では、県平均を国語タイプⅠ6.8P、タイプⅡ4.2P、算数タイプⅠ3.6P、タイプⅡ3.5P、理科タイプⅠ5.4P上回った。しかし、理科タイプⅡは3.5P下回った。 <input type="checkbox"/> 単元末テストの全学年の平均点は、国語89.1点、算数88.3点であった。一部の学年、学級で達成できていない実態がある。	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 本校の課題に向けて、カリキュラムマップを基に、PDCAサイクルを取り入れた授業改善計画を各学年作成し、課題を意識統一した指導を全学級で行う。 チャレンジタイムの指導内容を月ごとに改善し、習熟発展的な問題を取り入れた指導の充実を図る。 通過率30%未満の児童においては、学年を解体するなど習熟度別に個別補充学習を丁寧に行う。 	<input type="checkbox"/> カリキュラムマップをもとに、授業改善計画を全学年100%実施し、進捗結果を検証、分析した。更なる定着を図るための、「課題総復習問題」を各学年作成し、チャレンジタイムに指導し、ファイル化した。 （達成率102%） <input type="checkbox"/> 単元末テストにおける全学年の平均点は、国語87.7点、算数87.2点と評価指標を達成できた。 （達成率102%） しかし、達成できた学級の割合は、国語81.2%、算数75%。一部の学級、学年に課題が見られる。 ◎単元末テストにおける通過率30%未満の全児童の割合は、国語1.1%、算数2%と1学期に比べて減り、短期目標は、達成できた。 （達成率110%）	4	4	5	<ul style="list-style-type: none"> 教科横断的にカリキュラムマップの見直しを図り、効率的に各学年の総復習が行えるよう指導の工夫・改善し、全学年確実に定着を図る。 チャレンジタイムの改善計画をもとに、習熟発展的な問題を取り入れた指導の充実を図る。 4・5年生に焦点化したパワーアップタイムを設定し、学校全体で学力向上を図る。
				算数科を中心とした「学び合い」のある授業づくりを行う。学期毎に学年での教材研究を行い、全学級授業研究を行う。	本時の「付けたい力」に沿った、効果的な学習形態を工夫した授業の実施率を90%以上にする。	<input type="checkbox"/> 学期に1回、低・中・高学年部会別に、指導案検討・研究授業に全教職員が取組、「付けたい力」に沿った、効果的な学習形態の授業実施率は100%であった。 <input type="checkbox"/> 問題把握に時間がかかり、1時間の中で、適用題・振り返りまで行う授業展開に課題がある。	4	3	<ul style="list-style-type: none"> 35分+10分の授業構成に取り組む中で、本時の「付けたい力」と「めあて」と「まとめ」「振り返り」が整合した学習展開を行う。 毎時間の適用題を80%以上の児童が自力解決できるよう「付けたい力」に整合した、効果的な学習形態を工夫した授業を行う。 	<input type="checkbox"/> 授業展開に応じ、「付けたい力」に沿った学習形態を工夫した授業は100%実施し評価指標を達成できた。 （達成率100%） 考えを広げ深める対話的な学び合い学習を行うことに課題がある。 ◎毎時間の適用題を80%の児童が自力解決できる授業実施率は58.3%と、通過率30%未満の児童の割合を増やさないよう、毎時間児童のつまずきを予想しながら授業を展開することに課題がある。 （達成率58.3%）	4	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 「見通し」「グループ学習」「まとめの確認」など多様な場面で「学び合い」学習を実践し、比較統合・検討など思考を深める対話的な学び合い学習を行う。 図・式・説明を相互に関連させながら、活用問題を取り入れた授業展開を仕組む。 児童のつまずきの把握を的確に行い、毎時間の適用題を80%以上の児童が自力解決できる授業を行う。 	

3	児童の自己肯定感を高める。	★	継続	<p>児童には、「自分には良いところがある」「自分の良さは他人から認められる」「自分の良さは他人から認められる」に対する肯定的評価を前年度平均より5%上げる。</p>	<p>児童がお互いの良さを認め合う場を多く設定し、友達の良い所を見つけ、交流し合う。</p>	<p>「自分には良いところがある」児童の割合を85%以上にする。</p>	<p>□帰りの会で、友達の良いところを見つけあったり、全校児童の良いところをハッピーボックスにカードを書いたりする活動を通して、「自分大好きアンケート」による意識調査により、昨年度は80%だったが、今年度10月は、87%と7%上回った。</p> <p>□児童会で5つのルール「無言移動・あいさつ・無言そうじ・履物整頓」を頑張った学級を表彰したが、学級によっても頑張りには差がある。</p>	3	3	<p>・がんばった学級は、賞状・シール等で全体に紹介し、掲示物などで児童の頑張りを可視化する。また、児童会、委員会が主体となり、各学級へ啓発する活動を多く取り入れ、児童の意欲を高める。</p> <p>・あいさつ週間・掃除週間等、焦点化した取組を行い、児童朝会で良い学級を積極的に認め合う場面を設定する。</p>	<p>□児童の頑張りを可視化する ◎ために、給食放送で児童のいいところを全校で紹介したり、各学級・学年でお互いのいいところを認め合える場を設定を工夫したりしたところ、「自分には良いところがある」と答えた児童が85%と評価指標を達成できた。 (達成率100%) ◎「あいさつ週間」「掃除週間」「身だしなみ週間」などの焦点化した取組によりがんばっている児童や班を表彰することで、低学年の自己肯定感が高まってきているが、高学年の自己肯定感が低いことに課題がある。</p>	4	4	4	<p>・各学年・学級で児童の「良いところみつけ」「ほめほめシャワー」など、工夫した取組を行い、がんばっている個人学級を表彰し、児童の意欲を高める。</p> <p>・児童会、6年生が主体的に計画し、運営している「あいさつ運動」「ボランティア清掃」の輪を広げ、5年生、下級生にもその運動を引き継ぐことで、高学年児童の意欲を高める。</p>
				<p>学期に1回(6月・10月・2月)神辺中学校区アンケートを実施し、実態をつかんで改善策を図る。</p>	<p>「自分の良さは他人から認められている。」児童の割合を88.5%以上にする。</p>	<p>□「自分大好きアンケート」による意識調査は、昨年度67.9%から、10月76%と、8.1%上回った。</p> <p>□全校児童の達成感・充実感を感じる場面設定が少なかった。</p>	3	3	<p>・児童主体の工夫した教育活動を行い、児童が達成感・充実感を感じるような場面設定を行い、児童の自己肯定感を高める。</p>	<p>□「自分大好きアンケート」による意識調査により79%と、評価指標88.5%は達成できなかった。 (達成率89.2%) しかし、短期経営目標「前年度より5%あげる」においては、達成できた。 ◎5つのルール「無言そうじ」では、縦割り班リーダーが中心となって自主的に活動するなど、異学年交流を意図的に仕組むことで、自分のよさを周りから認められる児童が増えた。</p>	3	4	4	<p>・児童が達成感、充実感を感じるような、児童主体の工夫した異学年交流(遊び会)等の場面を設定し、他学年のよさに、児童も教師も目を向け児童の自己肯定感を高める。</p> <p>・「5つのルール」身だしなみチェック表を掲示することで、各学級の頑張りを可視化し、更にいいところを毎週放送で伝え合う活動を継続して取組む。</p>	
3	心身ともに持続力が備わった児童を育成する。		継続	<p>新体力テストにおいて、県平均を上回る種目率を65%以上にする。</p>	<p>体育の授業において、柔軟運動と敏しょう性を高める運動を取り入れる。</p>	<p>水泳や運動会の練習など特別な授業を除いて、柔軟運動・敏捷性を高める運動を準備運動の中で実施している割合を100%にする。</p>	<p>□各学級、柔軟運動・敏捷性に取組む運動に取組、実施率94%であった。</p> <p>□新体力テスト(1回目)の目標値を各学級設定し、昨年度県平均を達成した種目32.2%が、本年度は、72.9%と昨年度より40.7%伸び率が上がった。</p>	4	4	<p>・全学級において、柔軟運動・敏捷性を高める運動を体育授業に取り入れる。</p> <p>・指導内容を工夫し、月ごとに指導内容の進捗状況を保健主事が把握し、指導・助言する。</p>	<p>□柔軟運動・敏捷性に取組む運動の実施率100%評価指標を達成できた。 (達成率100%) 更に、敏捷性を高める運動を体育授業で重点的に実施した結果、「反復横とび」は、どの学年も県平均を上回った。 ◎新体力テスト再テストの実施期間を全校統一して行うことで、県平均を上回る種目率は88.5%と目標を達成した。 (達成率136.2%)</p>	5	5	5	<p>・体育科授業の準備運動の流れを掲示し、がんばりカードにおける「体力づくり」の項目を、全校で統一し、体育の授業で取り入れる。更に家庭学習でも、取り組ませることで、児童の意欲の向上を図る。</p> <p>・体育委員を中心として児童が主体的に運営できる活動を仕組みケンステップや、縄跳び練習台など作成し、楽しく体力づくりができる環境を整える。</p>

3	責任を果たすための組織的な取組をする。	★	新規	福山100NEN教育アンケート「仕事に意義とやりがいを感じている」教職員の割合を75%以上にする。	学校評価自己評価表をもとにした学年経営案、分掌行動計画シートを作成し、月末に進捗状況を把握する。	学年経営案、分掌行動計画シートによる月末・学期末の進捗実施率を80%以上にする。	<input type="checkbox"/> 仕事に意義とやりがいを感じている教職員の割合は、72.2%であった。 <input type="checkbox"/> 学年主任会・企画委員会までに進捗把握・確認する体制を仕組み、学年経営進捗実施率は98.3%、分掌行動計画シート進捗実施率は84.8%であった。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 効率的に見直しをもって、分掌の仕事運営できるように、学年経営案、分掌行動計画シートの進捗状況の把握を行い、月毎の成果と課題、改善策を企画委員会にて報告する。 全ての教育活動を21世紀型スキル&倫理感でつなぎ、行動化できる児童を育てるための指導法、改善策を各分掌部会、主任会で出し合い、カリキュラムマップの修正を図る。 	<input checked="" type="checkbox"/> 仕事に意義とやりがいを感じている教職員の割合は94.4%で、各分掌部の結果が目に見える成果として表れたことで、多忙の中でも教員の充実感が得られた。 (達成率125%) <input type="checkbox"/> 学年経営案達成率84.8%、部長行動計画シートによる達成率88.3%と、各学年主任・主事を中心とした運営を図ることができた。 (達成率110%)	5	5	5	<ul style="list-style-type: none"> 各主任・主事が見直しをもって、次年度の分掌の仕事運営を効率的に運営できるよう、業務改善に務める。 全ての教育活動を21世紀型スキル&倫理感でつないだカリキュラムマップの修正を図る。
			継続	学校・家庭・地域が学校の取組を共有し、児童を育てる。	学校により・学級だよりを発行し、児童の様子・活動内容を家庭・地域に発信する。	保護者・地域アンケート「学校の教育活動に満足している。」の肯定的評価を90%以上にする。	<input type="checkbox"/> 21世紀型スキル&倫理感に基づく教育活動を、地域一体となって取組、学校と地域の交流の様子を随時リニューアルしたHP、学校だより等で発信し、啓発活動を行っている。保護者対象の学校評価アンケートでは、肯定的評価が95.5%であった。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 学校の取組が伝わっていない保護者に対して、参観日や行事、HPや通信などを通して情報発信をする。保護者、地域からの訴えに対して、敏速に誠実に対応する。 	<input type="checkbox"/> 学校評価アンケートでは、肯定的評価が98.8%と非常に高かった。HPやメールも活用して積極的に情報を発信した。保護者からの要望に対しては、素早く対応できた。	5	5	5	<ul style="list-style-type: none"> 学級によっては、もっと情報発信の回数を増やしてほしいという要望がある。今後、HP、メール等を活用して、更に発信力を高める。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成度評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。